

お走り祭りについて

「常に走るように練る」の意（お走りさん）（はっとうさん）

養父市無形民俗文化財

一、年代

神功（じんぐう） 皇后の代、約一、八〇〇年前より行われている

一、由来

約一、八〇〇年前、神功（じんぐう） 皇后の朝鮮半島への交流で大陸文化技術（牛、蚕、新種（五穀、野菜） などおみやげとしてお持ち帰りになる。無事の帰朝をお祝いで「葛の葉の餅」がつくられ功のある神社に賜った。養父神社よりそのお分かちためとおみやげ等と共に功のあった斎神社に神幸があった。それが今日までつづいている。

民間俗語として、女神と男神の年に一度のおうせを楽しまれたという言い伝えもある。

一、掛声

「はっとうようござるか」お祝いのお餅のお分けする量が八斗（八はめでたい数）でよろしいかという意

一、道巡

往路 養父神社御本社↓ 藪崎↓ 小城橋

↓ 渡御（とぎよ）↓ （県道養父朝来線）

↓ 建屋（御旅所一泊）↓ 翌日早朝 斎神社にて神事

復路 斎神社↓ 広谷↓ 上野↓（国道）↓

掘畑↓ 養父市場↓ 養父神社

一時代、玉見伊豆左近山↓口大屋上山↓かなべ熊野↓森を通ったこともある

一、輿型体

近世、輿が出来るまではご神体を神官の身につけて神幸した。牛の背、馬の背、牛車などを経て、今日のような輿は江戸時代より用いる。構造特異にして肩でなく腰の位置で柄を持ち、そででかかいこむ。役割名称は、総指揮、同助手、赤牛（神供をもつ）、お柴（幣神）、若人（帯刀し神官の護衛）、駄荷、世話方、氏子総代、神官旗もち（十人）、昇丁（かいちよう、みこしかきの人、十人）本肩、長柄、風鈴、昇丁供（交代の人々、十人）本杓、添杓

一、日時

（平成十四年より休日に変更）
四月十四日夕 奉仕者集合 池の水で禊

（こりをとる）、輿参殿

十五日朝

川で禊、盛装（昇丁手甲脚半わらじ）

十五日夜

建屋一泊

十六日朝

建屋川で禊、斎神社へ参殿
お走り祭り祭典

十六日夕

養父神社帰着
上代、師走未走りの申もどり

一、現代

（十二月末の日に出て申の日に帰る）
御神輿が御通過になる郷里の、民生安定・家業繁栄・交通安全をお祈り申し上げますと共に、当地方の無事繁栄を祈ります。

養父神社 宮司 伊藤 千可志

4月12日(土)

令和7年度『お走り祭り』開催

発行／養父神社社務所

〒667-0112 兵庫県養父市養父市場 840 番地

電話 079-665-0252 / FAX 079-665-0363

<http://www.yabu-jinja.jp/ohashiri>